



檜小だより

檜原学園檜原小学校



3月号

令和2年度

2月26日(金)

ホームページアドレス <http://rlco.jp/hinoharasyougakkou/>

ひとつのこと

校長 乙津 秀敏

卒業式が近づいてきました。今年度は11名が中学校へと旅立ちます。卒業生は昨年度末の3月から合計約3ヶ月間もの間、新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休業という未だかつてない事態を経験しました。そのような中、学校再開後は、できることにしっかりと取り組んでいくことをベースに担任と共に一日一日を大切に学校生活を送ってきました。今、小学校生活を終えるにあたり、その頑張りに心から拍手を贈りたいと思います。よく頑張りました。この一年間、確かにできないこともいくつかありました。しかし、卒業生にはできなかったことを嘆くのではなく、このような時期でも自分たちが毎日頑張ってきたことに誇りをもってほしいと思っています。保護者の皆様、地域の皆様にはどうか卒業生に対し、暖かいエールを送っていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

私からは、そんな子供たちに次の詩をプレゼントしたいと思っています。この詩は「ひとつのこと」と言い、かつて私が勤めていた学校で卒業式の際によく歌われた合唱曲の歌詞です。この学校で私は6年生を複数回担任したため、当時の記憶を蘇らせてくれる大好きな歌の一つでもあります。ふとしたときに口ずさんでしまいます。一度じっくりとお読みください。卒業式まで残り約三週間。最後の授業となる卒業式を無事挙行できるよう、教職員一同これから当日まで新型コロナウイルス感染症への対策をしっかりと施し準備を進めて参ります。ご理解ご協力の程よろしく願いいたします。

さて、この詩ですが、作者は齊藤喜博という方で、昭和の時代に活躍した教育者です。私はかつてこの方と縁ある学校に勤務していたため、どのような実践をされた方なのかと興味をもち、調べたことがあります。この方は自らの教育経験を通じてその実践を練り上げ、生涯をかけて一つの教育論を創り上げていきました。簡単に言うと「授業とはどういうものであるべきか。」そのことに真摯に向き合った方です。亡くなられてから既に40年が過ぎていますが、今の時代にも通用することが多いと感じています。ここではその一面を紹介させていただきます。これは私の解釈ですが、この方の実践の一つに他人との対話の重視があります。自分の考えを臆することなく他人の前で明確に表出すること、そしてそれに対し、聞き手はじっくりと耳を傾け、向き合い、自分の考えを付き合わせていく。時として考えが違ふ相手とぶつかり合い、自分の考えが否定されることもあれ結果としてお互いに協力し合い一つのゴールへと向かっていく……。そんな授業の創造です。今の時代、他者の考えに反対の意見を述べることにためらいを覚えたり、時として一方的に自分の考えに固執し感情に走ってしまったりということが見られます。今の子供たちが社会に出る頃には、よりグローバル化が進むとみられています。言葉も違い、価値観も違う多くの外国の方とも関係を構築していくこととなります。ですので、先程述べたようなスキルを身に付けることがより一層求められていくことでしょう。卒業生のみならず、子供たちには今やるべき「ひとつのこと」に真剣に向き合うこと、そして他者との対話を大切に、お互いに協力して「ひとつのこと」を成し遂げていくことを意識して行ってほしいと願っています。

皆様、一年間本校の教育活動にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございました。

次年度もどうぞよろしく願いいたします。

「ひとつのこと」

齊藤喜博作詞・遠矢良英作曲

いま終わる ひとつのこと
いま越える ひとつの山
風渡る 草原(くさはら)
響(ひび)き合う 心の歌
桑(くわ)の海 光る雲
人は続き 道は続く
遠い道 はるかな道
あす登る 山も見定め
いま終わる ひとつのこと
いま終わる ひとつのこと

3月の生活目標

1年間のしめくりをしっかりとしよう

令和2年度を振り返ってみると、コロナ禍の中でもできる最高の教育活動を模索してきた一年間という言葉で締めくくれる思いがします。休業中に行ったオンラインタイム、密を避け短時間で充実させた運動会、学芸会の代わりにふるさと檜原学習発表会など、子供たちと教職員が、力を合わせ、充実した学びを求めて取り組んできました。3月は1年間のまとめの月であると同時に、進級に向けた準備の月でもあります。次年度も、まだまだこの状況は続くと思われまます。「コロナ禍だからできない」ではなく、「コロナ禍の中だからこそ、工夫と新しいアイデアを生み出せる」と前向きに考え、次年度への準備を進めたいと思います。ご家庭におかれましても、子供たちへの励ましの声掛けをよろしくお願いいたします。生活指導部 河野 香織

英検 Jr.

2月18日(木)に今年度第2回目の英検 Jr.を実施しました。英検 Jr.は、英語に親しみ、外国の文化を理解することを目標として開発された、小学校の外国語科、外国語活動に対応しているテストです。英語学習の入門期にもっとも大切と考えられている、リスニング力を測る形式のテストとなっています。そのため、成績は合否ではなく正答率で、進級の目安とともに表示されます。外国語の学習の成果を確かめる一つの方法として活用し、今後の学習に生かしてほしいと思います。



英検担当 小林 忍

新入時説明会

2月4日(木)、来年度檜原小学校に入学する新1年生と4月から最高学年となる現5年生の交流をしました。新1年生を迎える最初のお仕事として、学校を案内してあげたり、読み聞かせや折り紙作りをしたり、ゲームなどの活動を一緒にやったりしました。「新1年生の緊張している様子がよく分かった。」「最後の方はリラックスして笑ってくれた。」という感想が出るなど、相手の表情を感じ取りながら5年生の児童が接する様子がたくさん見られました。

新1年生が安心して学校生活を送ることができるよう、来年度も優しくリードしてくれることを期待しています。5年担任 竹内 啓太

元気アップウィーク

2月22日(月)から2月28日(日)の期間に実施した元気アップウィークでは、ご家庭でのご協力ありがとうございました。元気アップウィークに先駆けて実施した2月16日(火)の元気アップ集会では、全校でリズム縄跳びに取り組みました。縄跳び週間で取り組んできた様々な縄跳びの技を組み合わせながら、曲に合わせて子供たちはリズムよく縄を跳び越していました。

元気アップウィーク後も、子供たち一人一人が体を動かすことの気持ちよさを体感しながら、様々な運動にチャレンジすることができるよう、学校全体で取り組んでいきます。



体育的行事委員会 根本 夕芽

研究の取組

今年度、檜原小学校では「ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりや学習環境の充実」を校内研究のテーマとして取り組んできました。

「みんなが分かる・できる」を実感できる授業を作っていくために、低学年、中学年、高学年の3つのグループに分かれて研究授業(他の先生方に授業を見てもらった後、協議)を行い、研鑽を重ねました。学習の中で分かる・できるようになるといった喜びは、子供たちの「もっと学びたい」という気持ちを育てるための大きなエネルギーとなります。これからも、教員一同「みんなが分かる・できる」授業を行うために努めてまいります。

研究主任 山口 高志

SDGs紹介

6年生では、社会の学習で、SDGsとのつながりを考えるワークシートを使用しました。

これをきっかけに子供たちは、保健の授業で薬物や飲酒について学びと

「SDGs 3の健康と福祉につながる」と気付いたり、社会の学習で国際の問題を学習した時には、「日本ではランドセルの色が赤と黒で分かっている。」などジェンダー平等のSDGs 5と関連付ける発言があったりと、視野が広がってきました。

今後も学習とSDGsとを関連させ、児童の多面的な思考を広げていきます

